詠む広場

毎日俳壇

片山由美子 選

次の橋くぐれば海へ涼み船　和歌山　神野　一馬

△評▽川を下って海まで行く納涼船。「次の橋」によって、それまでいくつも橋があったことが分かり、表現の省略が効いている。

冷房を止めて夜明けの風を待つ　秦野市　林　ち島

△評▽冷房をつけたままでなければ眠れなかったのが、自然の風をありがたいと思うころに。

花火待つ湖畔の風に吹かれつつ　平塚市　高橋　佳代

名物の何もない町蟬時雨　入間市　木嶋　務

緑蔭や佇みて聴く風の音　八女市　水町　好江

客を待つ鯉の洗膾に布巾掛け　上尾市　清水　昇一

かなかなのこゑのはなるる夕木立　嘉麻市　堺　成美

屋根の無き自転車置場大西日　明石市　増田　良子

ゑのころの丈にも風の通ひをり　横浜市　延沢　好子

入院の妻手鏡に映す虹　横浜市　菅沼　葉二

小川　軽舟 選

涼新た老犬深く眠りけり　宍粟市　宗平　圭司

△評▽新涼を楽しむように老犬が深く眠る。飼い主もまた安心して深く眠れそうだ。犬への愛情がさりげなく表された。

露草や終の住処と決めし朝　徳島市　藤岡　値衣

△評▽いろいろ迷ったがこの家に最後まで暮らそう。庭の露草を見てやっと決心がついた。

二代目は有機農法青田風　平塚市　森本富美子

前歩く人ふっと消ゆ百日紅　奈良市　浦城　亮祐

パソコンを閉ぢて突つ伏す三尺寝　東京　種谷　良二

白南風や雨のにほひの残る路地　臼杵市　村上　玲子

夕立やマドラーの立つ空コップ　平塚市　藤森　弘上

退職の後の無聊や百日紅　出雲市　石原　清司

二時間に一本の駅風死せり　君津市　本吉　孝雄

夏シャツや雑誌の頁壁に貼り　越谷市　越谷万太郎

西村　和子 選

半眼の心で語る敗戦日　大阪市　吉田　昌之

△評▽目を見開き全てを見つめるのではなく、半ば悟りのまなざしか。どんな心か、読み手に問いかける力を感じた。

母が云ひし庇間風に汗が引き　大阪市　福永　都女

△評▽お母さんに教えられた言葉を思い出しながら浴びる風は、涼しく懐かしく大事にしたい。

八ケ岳すべての嶺に夏の雲　川崎市　久保田秀司

やれやれと噴水肩を落としけり　鹿嶋市　津田　正義

自転車のはじめよろめき猫じゃらし　久喜市　利根川輝紀

近頃はのぼる子をらぬ大夏木　東京　望月　清彦

涼新た白抜暖簾の一文字　横浜市　相沢恵美子

一泊もせぬ帰省子でありにけり　奈良市　上田　秋霜

口数のめつきり減つて秋暑し　茅ケ崎市　古田　哲弥

子守宮の逃げる手足の微笑まし　秦野市　林　ち島

井上　康明 選

燃え盛りたる送り火に風の色　富士市　後藤　秋邑

△評▽その色は、お盆の最後の日に肉親の霊と別れる、悲しみの色だろう。送り火は風に吹かれて、一瞬燃え上がる。

ひとりの歩ひとりのことば秋の河　福岡市　三十田　燦

△評▽豊かに流れる秋の川のほとりをひとり歩いていく。秋をたたえることばを口にしながら。

岸へ寄る流灯ひとつ押し戻す　高松市　島田　章平

蟬しぐれ日暮るる風を追ふごとし　久留米市　持地　恒美

かの祖父と鶏つぶしけり盆用意　朝倉市　鳥井てんせき

人住んでゐるらし椎茸が干され　亀山市　藤原　紅

刈り急ぐ田や台風のくる前に　津市　秋山　歩荷

被災地に子供食堂天高し　東京　福島　照子

西瓜甘し十五の頃の日記帳　町田市　岡　良

病む妻のわがまま許す鳳仙花　大阪市　吉田　昌之

出会いの季語

三津の町へ　高田正子

8月の末、松山市の三津の町を歩いた。南の海に台風10号を置きながらの俳句甲子園（同市）が、熱中症厳重警戒の内にも無事に終わったあとのことだ。私自身の予定は流れてしまったので、若い方々の計画に、誘われるままに飛び入り参加させていただいたのだった。

・よき友のよき一言や新豆腐　宇多喜代子

伊予鉄高浜線で三津駅へ。まず運賃を確かめて切符を買う。何年ぶりのことだろう。改札を通るときはハサミでなくハンコだったが、これもまた懐かしい。

三津駅では下車後、すぐに町へ入らず港山のほうへ向かった。細い入江を隔てて三津の対岸にある町だ。海に切り立つ崖の上にはかつて城があったのだとか。

崖のふもとには「三津（港山）の渡し」がある。江戸の昔、当時33歳の一茶も渡ったらしい。一茶の紀行文が残されていて「小深里の洗心菴に会す」として、△**汲ミて知るぬるみに昔なつかしや**▽ほか3句が記されている。

遠回りして入った三津の町は、昔の屋敷をそのまま、あるいはリノベーションして店舗に利用するなど、人の手が居心地よく加わった町だった。メインストリートの石だたみは照り返しがきつかったが、片陰にかき氷待ちの列ができていたり、手を出すとふーっと怒る猫が寝そべっていたり。

そう、秋を感じることは一度たりともなかったが、今その日の写真を見返すと、空の色や影の深さが秋らしく見えてくるのが不思議。面白い一日だった。

（たかだ・まさこ＝俳人）